Climb
クライム

川野小児医学奨学財団
2025年度 事業報告書

みんなで
のりこえる。

みんなでのりこえる。

川野小児医学奨学財団は、病気で息子を亡くした父親の
「病に苦しむ子どもを減らしたい」という思いからはじまりました。
1989年に設立され、30年以上にわたって、
小児医学の支援に取り組んでいます。

子どもの病気に関する研究への助成や、
小児科医を目指す医学生への奨学金給付、
小児医療施設のサポートなどに取り組むなかで感じてきたのは、
子どもをとりまく問題の解決には社会全体の力が必要だということです。
医学が進歩し、乳幼児の死亡率は減っていますが、
いまだ解明されない小児の難病の存在や
特別なケアが必要な子どもの増加など問題は尽きません。

さまざまな立場や役割の人たちといっしょに、
子どもたちが直面している問題を、みんなでのりこえる。
私たちは一歩ずつ、歩みをすすめてまいります。

interview

子どもの楽しいを大切に「治す」ではなく「共に歩む」へ

ケイコ（母） ヒナ（娘）

小さい頃から好奇心が強く、天真爛漫だったヒナさん（仮名）。お絵描きが大好きで、家では妹と仲良く元気に遊ぶ女の子だった。しかし幼稚園に入り集団行動が始まると、人との距離感がうまく取れず、少しずつ家とは違った複雑な表情を見せ始める。

小学校に進んでからは、学校で嫌なことがあると家で怒り始めたりすることも。中学校で新しい環境になると、周りとうまくいかなくなることが増えていく。仲間外れにされているように感じて学校に行くのが辛くなり、ついには登校できなくなってしまった。

母親のケイコさん（仮名）が当時を振り返る。

「元々、人と関わりたい気持ちが強い子で、本人は引きこもりたかったわけではないんです。人と関わりたいのにうまくいかないということが、一番しんどかったと思います」

そんなヒナさんを母親として優しく見守りながら、無理に学校に行かせようとはしなかったという。

料理が大好きなヒナさん。ある日、自宅で料理をしている最中に、ちょっとうまくいかなかったことに対して、ものすごく怒ってしまったことがあった。

ヒナさん自身が「必要ないことでそこまで怒ってしまった自分に違和感を持った」と振り返るその出来事がきっかけで、自ら受診することを決めたのだという。

「私、何でこんなことで怒るんだろう。やっぱり私はおかしいのかな。そう思ってお母さんに受診したいと話しました。自分自身でもすぐに怒ってしまうことに悩んでいましたし、高校に進むにあたって人間関係の面で失敗したくない気持ちもありました」（ヒナさん）

実はその少し前に、ケイコさんは心理士に相談したことがあったのだという。そこでは「中学生ならよくあることだから大丈夫」とアドバイスをもらっていたが、その時に信頼できる小児科医として宮本信也先生を紹介してもらっていたのだった。

「本人が私以外の安心できる人に相談できるようになることは大事だと思っていました。何か具体的な解決に向かえるのではないかと期待する気持ちもあり、宮本先生のところに行くことを決めました」（ケイコさん）

受診にあたり、ヒナさんは「自分一人で先生と話す」と決めた。「自分が悩んでいるんだから、私の言葉で伝えたいと思ったんです」。

初めての診察を宮本先生は次のように振り返る。

「気持ちの起伏が激しく、それを何とかしたいと話してくれました。話していて『自分のことをよくわかっているな』と感じました」

初診後、ASD（自閉スペクトラム症）という診断に。「可能性としてあるかなと思っていたので、そんなにびっくりはしませんでした」とケイコさん。ヒナさんも「ああ、そうなんだという感じで。それよりも原因が普通にわかって、『なるほどなあ』みたいな気持ちでした」。

何よりケイコさんは「先生がヒナの話を想像以上に丁寧に聞いてくださったのが嬉しかった」と話す。

現在、診察は月に一回程度。お薬も服用しながら、普段困っていることや不安なことを相談し、もらったアドバイスを生活の中で役立てていく。ヒナさんの日常に「安心」が戻ってくるにつれて、高校から再開した学校生活にも少しずつ慣れていった。

「最初のうちは家では怒ったり泣いたりしてしまうこともあったんですが、先生からは『遅刻や早退はしても大丈夫。自分にとって楽なようにね』と言ってもらえたことで前向きになれています」（ヒナさん）

変化はそれだけではない。「人と関わりたい強い気持ち」を横に置いておけるようになった。

「そのおかげでマイペースさを大切にできるようになり、同時に癇癪やイライラが減っていきました」（ケイコさん）

「私も、すぐに怒ってしまうのは自制心がないからだと思って悩んでいたんですが、きちんとした原因があることがわかり、不安がなくなった。すごく大きな変化です」（ヒナさん）

最近は「もっと友達がほしいな」と思うようになったヒナさん。宮本先生からは「自分の好きなことを見つけてやっているうちに、気の合う仲間はできるよ」とアドバイスをもらったことで、「頑張りすぎなくていいのかな」と気持ちも楽になっているという。

定期的な診察と投薬のおかげで、ヒナさんの気持ちの安定と共に自身の変化も実感しているケイコさん。

「正直、最初のうちは困って『怒んないでよ、泣かないでよ』と言ってしまう場面もありました。でも、診察を受ける中で、それが本人の意思ではなかったことに気が付きました。ヒナ自身が一番しんどかったんだなと」

近くで見守ってくれる宮本先生の存在も大きい。

「受診のたびに的確なアドバイスをいただけるので、余計な疲れやストレスを溜めずに、安心して生活ができています」（ケイコさん）

振り返って感じるのは、何も特別なことではなかった、ということ。普通の日常の中で、「こうしなければならない」とはなるべく考えずに、子どもと向き合っていく。引き続き、マイペースで過ごせるよう見守りながら、「子どもがやりたいことに楽しく挑戦できるよう環境を

整えてあげられれば」とケイコさん。

そんな母親の気持ちに応えるかのように、ヒナさんは高校入学後、アルバイトを始めた。将来は農家になるのが小さい頃からの夢なので、週末には近所の農園で早朝から日没まで夢中になって農作業をしているそうだ。

発達障害への向き合い方について、宮本先生は次のように話す。
「発達に特徴があるというと、周りの人は『それを治さないといけない』というふうに考えがちですが、そうなるとどうしても無理をしてしまいがちです。その点、ヒナさんのお母さんは自然体で、特別なことと考えず『ちょっとこういうところがあるな』という部分に気を付けられて、いわば普通の子育てをされていると感じています。子どもを変えるのではなく、変わるのを待ってあげる、そういう対応で支えてあげられるといいですよね」

さらに続ける。「一般的にいう『発達障害』を医療では障害とはいいませんし、病気でもありません。誤解を恐れずにいうなら『体質』と同じようなものと考えるとよいかもしれません。例えば、アレルギー体質で花粉症がある人は、花粉がある時に症状が出ます。それと同じで、発達障害の特徴のある人も、環境次第で問題が出たり出なかったりする。私たちは、体質を変えようとするのではなく、問題が起こらない環境を整えてあげればいいのだと考えています」

ケイコさんも、今回の経験を通じて感じたことがあったという。「発達障害というと表面的な情報が多く、誤解されていることもあると感じます。なかなか知る機会もないので難しいとは思いますが、想像しているより普通のことというか、その人自身は何も特殊すぎるわけではないんだということを、多くの人にもっと知ってもらえたらいいなと思っています」

宮本 信也 先生
筑波総合クリニック・筑波大学名誉教授

金沢大学医学部卒。医学博士。自治医科大学小児科入局、同助手、講師、筑波大学心身障害学系助教授、教授、附属聴覚特別支援学校校長、附属特別支援教育研究センター長、副学長、白百合女子大学発達心理学科教授、副学長を歴任。現在は、つくば市で子どもの心の診療に従事。

事業内容と2025年度のご報告

子どもたちが心身ともに健やかに成長していくことを目指し、新しく開始した「医師・地域連携 子ども支援助成」を含め7つの事業を展開しています。2025年度の活動実績とあわせてご報告します。

1 研究助成

56名 約8,456万円

小児医学・医療の進歩により、子どもたちの健康は着実に守られてきました。しかし、いまだ解決すべき課題は数多く残されています。当財団では小児疾患の原因究明・治療・予防などに関する研究の発展を支えるため、1990年より小児医学研究者へ助成金を交付しています。2007年には若手研究者の活躍を後押しすべく、40歳以下を対象とした若手枠も設けました。2026年度からは支援の充実を図るため助成金額を引き上げ、一般枠は1件400万円、若手枠は1件150万円を上限に交付します。

2 奨学金給付

45名 3,756万円

「小児科医になって、子どもたちを支えたい」そんな高い志を持ちながらも、経済的な理由によって進学を諦めてしまう学生がいます。当財団では1990年から、小児医学を志す医学生および小児医学研究に従事する大学院生に対して奨学金事業を行っています。2021年からは埼玉県に加え千葉県内の高校卒業者にも対象を広げ、2023年からは給付額を月額7万円に引き上げました。奨学生は当財団開催のイベントを通じて、第一線で活躍する小児医学研究者から直接学ぶこともできます。

3 小児医学川野賞

3名 300万円

財団設立10周年を記念して、1999年に創設した小児医学川野賞。
優れた業績を挙げ、学術の進歩に貢献した小児医学研究者を表彰しています。“小児医学のさらなる発展を”との願いから、受賞後も小児医学への貢献が期待される55歳以下の研究者を対象としています。受賞者には賞状、賞金100万円とトロフィーが贈呈されます。創設当初は基礎医学、臨床・社会医学の2分野からの選出でしたが、2019年からは基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野にて選出をしています。

4 医学会助成

20件 約828万円

医学のさまざまな専門分野ごとに研究者が集い、研究発表や意見交換を行う医学会。当財団では、小児医学における各専門分野の発展を願い、1992年から国内で開催される小児医学に関する医学会に対して助成金を交付しています。現在は1件90万円を上限として助成しており、毎年多くの医学会からご申請をいただいています。小児医学研究者の知識の共有や技術の進歩を支える取り組みとなっています。

5 小児医療施設支援

14件 約190万円

医療施設に入院・入所している子どもたちのQOL（生活の質）を高めることは大切ですが、施設における予算確保は難しい課題です。当財団は1995年から、設備やイベント充実に必要な費用に対し、1件15万円を上限として助成金を交付しています。助成金はおもちゃや絵本などの購入に活用されています。対象は、2022年からは埼玉県に加え千葉県、2026年からは群馬県・神奈川県内の施設にも拡大しています。

6 ドクターによる出前セミナー

20件

子どもたちの命や健康を守るために、教育・保育の現場においても、医学的に適切な対応が求められています。2019年に開始したこの事業では、学校や保育園などで小児保健に従事する方たちが開催する研修会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣しています。2021年からは、養護教諭による研修会に加え、就学前教育・保育施設の看護職が実施する研修会にも対象を拡大しています。

7 医師・地域連携 子ども支援助成

5件 約300万円

子どもをとりまく問題が複雑化する今、職種や立場を問わず、子どもに関わるすべての人が「子どものこえ」に耳を傾け、連携して問題解決に取り組むことが重要になっています。
2025年に新しく開始したこの事業では、小児科医を中心とする医師が「子どものこえ」から明確になった問題の解決に向け地域とともに行う活動に対して、1件70万円を上限として助成しています。

1 研究助成

日本でも数少ない小児医学に特化した研究支援

小児医学・医療に関する研究の幅が広がる一方で、研究費の確保は年々困難になっているという課題があります。2025年度は一般枠74名・若手枠41名の応募がありました。選考委員会の結果、一般枠32名・若手枠24名の計56名の研究者に総額84,563千円の助成金を交付しました。2026年3月7日には都内会場にて、助成研究成果発表会を開催しています。

採択者一覧

■ 一般枠32名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
吉田 健司	京都大学医学部附属病院小児科 「脊髄性筋萎縮症における神経筋接合部をターゲットとする新規治療法の開発」	3,000
加藤 啓輔	茨城県立こども病院小児血液腫瘍科 「腫瘍発生メカニズムの統合的理解に基づくDICER1関連腫瘍の新規治療法開発」	3,000
三浦 慎也	聖マリアンナ医科大学医学部小児科学 「大規模診療データベースを用いた気管切開術後小児の長期予後の記述と予後予測因子の解析 - 気管切開児への診療最適化に向けて -」	2,340
宮本 大輔	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科移植・消化器外科学「肝機能を有するハイブリッド小腸組織移植による腸管不全合併肝障害治療の開発」	3,000
住友 直文	慶應義塾大学医学部小児科学教室 「心電図と人工知能の融合による新たな小児心疾患診断ツールの開発」	2,939
生田 和史	金沢大学医薬保健研究域・保健学系・病態検査学講座「胎盤 - 胎児環境に着目した経胎盤ウイルス感染症の機序解明」	3,000
石塚　一枝	国立成育医療研究センター女性のライフコース疫学研究部「こどもの孤独感を解消するには～コロナ禍でのこどもへの影響調査からの提案～」	2,400
細道 純	東京科学大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正学分野「妊娠期睡眠時無呼吸症が胎児エナメル質形成に与える影響：エピジェネティクスを介した世代間伝達メカニズムの解明と次世代の口腔健康増進に向けたアプローチ」	2,288
西村 範行	神戸大学保健学研究科パブリックヘルス領域 「神経芽腫患者における新規微小残存病変（MRD）モニタリング法の開発」	2,400
青木 一成	京都大学医生物学研究所幹細胞遺伝学分野 「SWI/SNF 複合体を基軸にした新規急性リンパ性白血病治療戦略の開発」	2,400
木村 志保子	大阪大学大学院医学系研究科感染症・免疫学講座　ウイルス学 「ウイルス動態解析によるインフルエンザ関連脳症発症機序の解明と治療法開発」	2,400
川井 正信	大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門「概日時計破綻に起因する骨格形成障害の分子機構の解明と治療法の開発 - 時間栄養エネルギー学を基盤とする解析 -」	2,400
塩浜 直	千葉大学大学院医学研究院小児病態学 「出生コホートを用いた肥満傾向と脳形態の包括的解明」	1,500
藤原 なほ	順天堂大学医学部小児外科学講座 「ヒルシュスプルング病の新規細胞治療に向けた細胞外微小環境のマルチオミクス解析」	1,500
長谷川 大一郎	兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科（研究部） 「再発・難治性ユーイング肉腫における治療抵抗性を担う分子メカニズムの解明」	1,500
里岡 大樹	滋賀医科大学生命科学講座（生物学） 「川崎病関連ナチュラルキラー細胞による川崎病冠動脈炎の病態形成メカニズムの解明」	1,500
林 久允	東京大学大学院薬学系研究科 「肝特異的ゲノム編集マウスの迅速作出法を活用した小児胆汁うっ滞性肝疾患の病態発症分子基盤の解明」	1,500
森戸 大介	昭和大学大学院医学研究科生化学分野 「もやもや病の分子病態解明に基づいた根治療法開発」	1,500
菅沼 栄介	埼玉県立小児医療センター感染免疫・アレルギー科 「川崎病の冠動脈狭窄における NLRP3 インフラマソームの役割と治療薬開発への応用」	1,250
赤星 祥伍	東京都立小児総合医療センター臨床試験科 「川崎病の臨床的サブグループに基づくサイトカインプロファイル分析」	1,500
腰塚 哲朗	岐阜薬科大学感染制御学研究室 「先天性ウイルス感染の成立と排除に関わる胎盤の免疫応答解明」	1,500
佐藤 尚子	理化学研究所生命医科学研究センター空間免疫制御理研 ECL 研究ユニット「小児胃クローン病における免疫応答の空間的プロファイリング - 新たな治療ターゲットの模索 -」	1,500
松﨑 秀夫	福井大学子どものこころの発達研究センター 「臍帯血による自閉スペクトラム症の出生時判定技術の開発」	1,500
澤田 博文	三重大学医学部附属病院小児・AYA がんトータルケアセンター 「新規遺伝子改変ラットを用いた肺高血圧における右心不全の病態解明と新規治療の開発」	1,500
三好 剛一	国立循環器病研究センター研究振興部 「マルチオミックス解析を用いた胎児心不全胎盤の病態解明及び母体血中バイオマーカー開発」	1,500

※敬称略・所属機関は採択内定時の機関

氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
石田 裕子	和歌山県立医科大学医学部 「細胞中に刻み込まれたトラウマを見出し児童虐待撲滅を目指す」	1,500
赤松 智久	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「新生児慢性肺疾患の炎症と繰り返す感染を同時抑制する新規吸入療法の開発」	1,500
竹内 典子	千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野「COVID-19 流行後の小児の侵襲性 A 群溶血性レンサ球菌感染症流行の原因となる細菌学的要因に関する研究」	1,500
設樂 佳彦	東京大学医学部附属病院小児科 「便プロテオーム解析を用いた新生児乳児食物蛋白誘発胃腸症バイオマーカー開発への挑戦」	1,500
林 良憲	日本大学歯学部生理学講座 「妊婦の感染が子供の体性感覚に異常をもたらす神経学的基盤の解明」	1,435
津下 充	岡山大学学術研究院医歯薬学域小児急性疾患学講座「アレルギーハイリスク早期乳児に対する加熱鶏卵粉末の摂取による鶏卵アレルギー発症抑制効果の検討」	900
花田 俊勝	大分大学医学部細胞生物学講座 「RNA 代謝異常に起因する小児小頭症：細胞老化を基盤とした病態機構の解明」	1,425
	小計	60,577

■ 若手枠24名

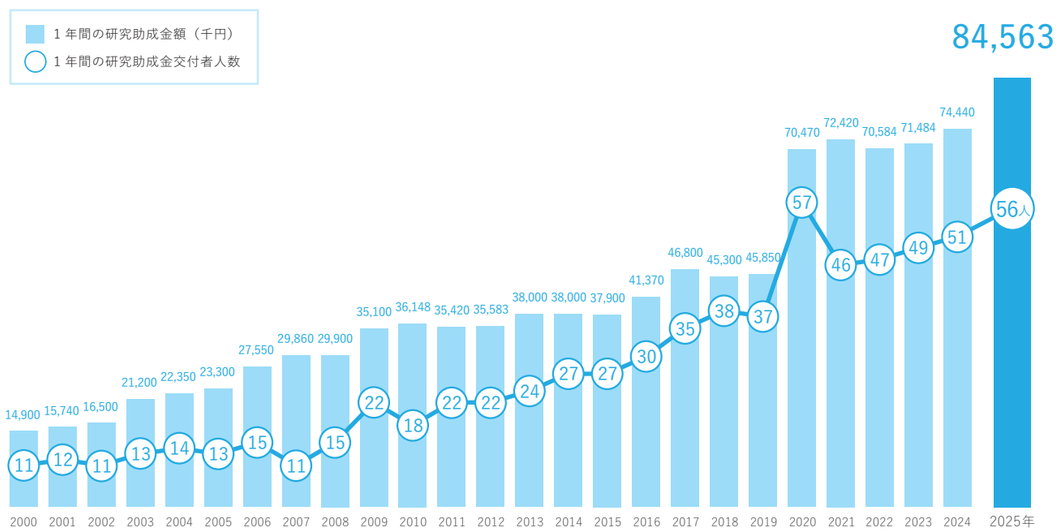
氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
津村 悠介	国立がんセンター研究所がん進展研究分野 「腎芽腫の新規ドライバー遺伝子の探索と機能解析」	1,000
鎌下 莉緒	千葉大学子どものこころの発達教育センター 「神経性やせ症の対人交流技能向上のための対人応答尺度と脳応答の解析」	1,000
粟生 智香	大阪大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター動物モデル解析部門「自家中毒症の背景にある、ストレスに対する糖代謝応答の成熟機構の解明」	1,000
幸 龍三郎	京都薬科大学生化学分野 「Verheij 症候群発症におけるスプライシング因子 PUF60 の役割解明」	1,000
窪田 博仁	京都大学医学部附属病院小児科 「マルチオミクス解析を基軸とした再発神経芽腫の最適医療の実現」	1,000
石田 悠志	岡山大学病院小児血液・腫瘍科 「小児期に発症した骨髄増殖性腫瘍の全国研究」	1,000
佐藤 雅之	旭川医科大学小児科学講座 「早産児の慢性期尿バイオマーカーによる腎障害ハイリスク例早期検出の試み」	1,000
西村 明紘	神戸大学医学部附属病院内科系講座小児科学分野「新規プロテオーム・ネットワーク解析を駆使した神経芽腫の新規治療標的探索」	1,000
高橋 龍樹	群馬大学大学院医学系研究科生体防御学 「RS ウイルスの感染による細胞周期変化の機序の解明」	1,000
渡邉 潤	新潟大学脳研究所脳神経外科 「小児脳幹部腫瘍におけるノンコーディング RNA：CCDC26 の機能解明と新規治療開発」	1,000

小池 宏	名古屋大学医学部附属病院整形外科「新規ヒアルロニダーゼ KIAA1199 を介した骨肉腫に対するオキサリプラチンの治療効果の解析」	1,000
酒井 渉	北海道立子ども総合医療療育センター集中治療科「超小型バルーンパンピングが心筋梗塞ウサギの心筋に与える影響」	1,000
國澤 和生	藤田医科大学大学院医療科学研究科 レギュラトリーサイエンス分野「小児炎症性腸疾患における免疫グロブリン反応に着目した診断・治療薬の探索」	1,000
吉田 彩舟	東邦大学理学部生物分子科学科「髄芽腫における薬剤耐性変異の克服に立脚した新規治療薬開発」	1,000
山崎 誉斗	三重大学大学院医学系研究科胸部心臓血管外科学「心疾患心標本とMicro-/Nano-CTを用いた先天性心疾患・心筋症の心筋線維走行の解析と心不全病態の解明」	1,000
武田 朋也	近畿大学薬学部薬物治療学研究室「肺微小環境におけるRANK-RANKLを標的とした骨肉腫肺転移治療法の開発」	1,000
青木 真史	済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科「日本人小児好酸球性消化管疾患(EGID)の臨床・分子基盤の解明と類似疾患との分子レベルでの鑑別」	1,000

※敬称略・所属機関は採択内定時の機関

三宅 優一郎	順天堂大学小児外科学講座「抗炎症ペプチド封入ナノ粒子を用いた横隔膜ヘルニアに対する新規胎児治療法の開発」	1,000
山本 篤志	東京女子医科大学循環器内科学、画像診断学・核医学分野兼務「心臓 MRI IVIM によるデュシェンヌ型筋ジストロフィーの診断と予後予測」	1,000
打浪 有可	北海道大学北海道大学病院麻酔科「直近の感冒症状があった小児患者において、声門上器具挿入は気道確保の安全性を向上させるか」	986
森下 真由	国立成育医療研究センター成育遺伝研究部「重症複合免疫不全症の新規原因遺伝子の機能解析」	1,000
稲毛 由佳	東京慈恵会医科大学小児科「遺伝子改変マウスを用いた低ネフロン数の世代間連鎖メカニズム：妊娠期循環動態変化と周産期予後への影響」	1,000
北谷 栞	金沢大学附属病院感染制御部「口蓋裂児の滲出性中耳炎における細菌プロファイルと薬剤耐性遺伝子解析に基づく新たな治療戦略の構築」	1,000
久保 沙羅	兵庫県立こども病院心臓血管外科「流体工学的解析を取り入れた小児大動脈弁・肺動脈弁の in vitro 実験」	1,000
	小計	23,986

これまでの実績［研究者に対する研究助成金と交付者の推移］



※1990年から開始　※2020年は新型コロナウイルス感染症に関する研究助成を含む　※交付決定後の辞退者を含む

開催レポート
2025年度助成研究成果発表会・川野賞贈呈式および記念講演会

当財団では、助成や表彰をした研究者に研究の進捗や成果を発表いただくとともに、その功績を称え、研究者同士のつながりをつくるため、毎年3月に本イベントを開催しています。2025年度は、2026年3月7日に都内会場にて開催いたしました。当日は小児医学川野賞の受賞者、研究助成一般枠採択者、奨学生および一般の参加者など、約90名がご参加くださいました。

助成研究成果発表会

2025年度研究助成一般枠採択者から31名が、各研究の目的や意義、成果について発表を行いました。発表後の質疑応答の時間では、研究者同士で活発な意見交換がされました。

発表会開会時の様子

川野賞贈呈式および記念講演会

小児医学研究者3名が2025年度小児医学川野賞を受賞し、トロフィーと賞状、賞金 100 万円の贈呈が行われました。贈呈後は、受賞記念講演として基礎医学・臨床医学・社会医学の3分野につき、各受賞者が研究の成果と今後の方向性などについて講演を行いました。

受賞者と理事長の記念撮影

交流会

小児医学川野賞受賞者、助成研究成果発表者に加え、当財団の奨学生や一般参加者を交えて交流会を開催しました。受賞記念講演や研究成果発表をうけての意見交換や、研究分野を同じくする研究者同士の交流、また奨学生が研究者へ質問する場面などがみられました。

研究者と奨学生の交流の様子

参加した発表者の声

数年前に参加したときよりも各発表のレベルが高くなっており、非常に勉強になりました。「小児」関連というだけで、これだけ広い分野の研究を聞ける会は貴重でした。

どの先生方も、今年度の助成を受けた研究の成果だけではなく、ご自身がこれまで長年してこられた研究背景や成果、課題にも焦点を当て、その連続性の中で今回助成を受けられた研究のご発表をされていたので、非常に内容が濃く有意義でした。

2 奨学金給付

子どもたちの未来を支える若い力を応援

継続する物価高騰の影響により、医学を志す学生の経済的負担は依然として大きい状況です。2025年度は29名からの応募があり、選考委員および理事長による審査の結果、新規18名の医学生に対する給付を決定しました。継続27名と合わせて計45名の医学生へ、総額37,560千円を給付しました。2025年9月6日にはヤオコー本社にて、奨学生証書授与式を開催しました。

給付者大学一覧

■ 新規給付18名

大学名	人数	年間給付額（千円）
愛知医科大学	1	840
旭川医科大学	1	840
金沢医科大学	1	840
杏林大学	1	840
群馬大学	1	840
慶應義塾大学	1	840
埼玉医科大学	2	1,680
順天堂大学	2	1,680
東海大学	1	840
東京医科大学	1	840
東邦大学	1	840
東北医科薬科大学	1	840
獨協医科大学	1	840
名古屋大学	1	840
弘前大学	1	840
福島県立医科大学	1	840
小計	18	15,120

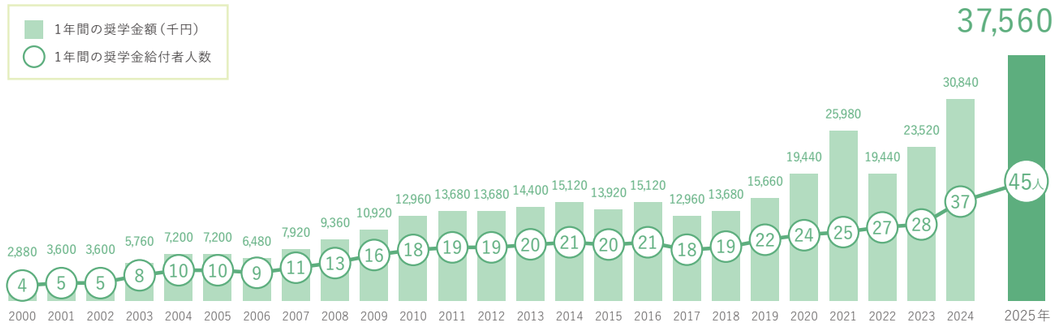
※五十音順

■ 継続給付27名

大学名	人数	年間給付額（千円）
大分大学	2	1,680
北里大学	1	840
杏林大学	1	840
慶應義塾大学	1	840
神戸大学	1	840
滋賀医科大学	2	1,680
順天堂大学	1	840
昭和医科大学	3	2,520
千葉大学	1	840
東京医科大学	1	840
東京女子医科大学	3	2,520
東北大学	1	840
新潟大学	1	840
日本医科大学	1	840
日本大学	1	840
弘前大学	1	840
福島県立医科大学	1	840
北海道大学	1	840
三重大学	1	840
山口大学	1	840
琉球大学	1	600
小計	27	22,440

※五十音順

これまでの実績［医学生に対する奨学金と給付者の推移］



※1990年から貸与型、2010年から給付型を開始し、2015年からは給付型のみ

開催レポート
2025年度開催の奨学生向けイベント

当財団では、将来の小児医学を担う奨学生が、高い医療技術を持つ医師になるだけではなく、患者から信頼され感謝される医師として成長することを願い、奨学金給付という経済的支援に加え、さまざまなプログラムの提供に取り組んでいます。2025年度も「医学生のためのコミュニケーション研修」「医学生向けキャリアセミナー」「医学生向けメンタルヘルス研修」を開催しました。今後も医師として求められるスキルを幅広い観点で捉え、奨学生の学びの機会を提供していきます。

新規奨学生証書授与式
2025年9月6日実施

新たに当財団の奨学生となった医学生に、奨学生としての自覚を持ち、充実した大学生活を送ってもらうため開催しました。理事長からの証書授与や新規奨学生代表者による決意表明の他、奨学生同士の交流および当財団への理解を深めることを目的に交流会も実施しました。

理事長から新規奨学生へ証書授与

医学生のためのコミュニケーション研修
2025年9月6日実施

医療現場ではコミュニケーション不足によるトラブルが少なくありません。患者やそのご家族、周りの医師や看護師と適切なコミュニケーションをとることは重要です。本研修では、YOU企画代表 松田幸子先生より、医師になる前の準備として、実践的な演習もふくめ状況に応じた話し方・聴き方を学びました。

研修中のロールプレイングの様子

医学生向けキャリアセミナー 2025年9月26日実施

奨学生がキャリアについて考えを深められるよう、さまざまなバックグラウンドを持つ当財団奨学生OBOGからキャリア形成の話を聞く機会を提供しています。2025年度は、奨学生OBである東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科 医長 海老島健先生より、キャリア選択や児童精神科の役割等をお話しいただきました。

医学生向けメンタルヘルス研修 2026年3月14日実施

医師としての職務においては、心身に多様なストレスが伴います。奨学生にストレスとの向き合い方を学んでもらうため、一般社団法人森とこころの研究所 代表理事 春日未歩子先生にご講演をいただきました。ストレスが心身に与える影響を学ぶとともに、自分の状態を客観的に見つめ直すワークなどが行われました。

3 小児医学川野賞

受賞者の多くが小児医学界をけん引する存在として活躍

小児医学の発展のために、今後の小児医学界をリードする存在の輩出は重要です。2025年度は基礎医学8名・臨床医学11名・社会医学10名の応募があり、選考委員会の結果、3名の研究者に小児医学川野賞を贈呈しました。2026年3月7日には都内会場にて、贈呈式および記念講演会を開催しています。

受賞者一覧

分野	氏名	所属機関	研究テーマ
基礎医学	田渕 克彦	信州大学学術研究院医学系分子細胞生理学教室	自閉症のシナプス原因説の確立
臨床医学	石田 秀和	大阪大学大学院医学系研究科小児科学	小児期発症心筋症の病態解明と臨床予後リスクの層別化に関わる研究
社会医学	藤原 武男	東京科学大学大学院医歯学総合研究科公衆衛生学分野	子ども期の逆境体験と健康：ライフコース疫学研究

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

受賞者コメント

基礎医学　田渕 克彦 先生

このたびはこのような栄誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に存じます。本研究を支えてくださった多くの皆様に、心より御礼申し上げます。本受賞を励みに、今後も小児医学の発展に資する研究を進めてまいります。

臨床医学　石田 秀和 先生

この度は、名誉ある賞を受賞させて頂きましたこと、誠にありがとうございます。心から光栄に思います。これからも、心臓移植を必要とするような重症心不全の子どもたちや心筋症の子どもたちのために役立つ研究と、その臨床応用に努めて参ります。

社会医学　藤原 武男 先生

この度は大変に名誉のある賞をいただき光栄に存じます。社会環境が大きく変化する中、どのように子どもの健康を守っていくのか、この受賞を機にさらに研究成果を上げて精進していく決意です。

これまでの受賞者

回 / 年度	分野	氏名	所属機関
第 6 回 2005年度	基礎医学	伏木 信次	京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学
第 7 回 2006年度	基礎医学	大橋 十也	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部・同小児科
	臨床・社会医学	夏目 長門	愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第 8 回 2007年度	基礎医学	峯岸 克行	東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学
	基礎医学	塚原 宏一	福井大学医学部附属病院小児科
	臨床・社会医学	山髙 篤行	順天堂大学医学部小児外科
第 9 回 2008年度	基礎医学	金子 英雄	岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター
	臨床・社会医学	小崎 健次郎	慶應義塾大学医学部小児科学教室
第 10 回 2009年度	基礎医学	深尾 敏幸	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学
	臨床・社会医学	髙橋 幸利	静岡てんかん・神経医療センター臨床研究部
第 11 回 2010年度	基礎医学	先崎 秀明	埼玉医科大学国際医療センター総合周産期母子医療センター小児循環器部門
	臨床・社会医学	海老澤 元宏	相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部
第 12 回 2011年度	基礎医学	下澤 伸行	岐阜大学生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野
	臨床・社会医学	川崎 幸彦	福島県立医科大学小児科
第 13 回 2012年度	基礎医学	福田 誠司	島根大学医学部小児科学
	臨床・社会医学	加藤 光広	山形大学医学部附属病院小児科
第 14 回 2013年度	基礎医学	滝田 順子	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学小児科
	臨床・社会医学	浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター
第 15 回 2014年度	基礎医学	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
	臨床・社会医学	髙橋 謙造	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第 16 回 2015年度	基礎医学	田島 敏広	自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科
	臨床・社会医学	家入 里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第 17 回 2016年度	基礎医学	北中 幸子	東京大学大学院医学系研究科小児医学講座
	臨床・社会医学	野津 寛大	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第 18 回 2017年度	基礎医学	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部
	基礎医学	深見 真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部
	臨床・社会医学	森岡 一朗	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
第 19 回 2018年度	基礎医学	道上 敏美	大阪母子医療センター研究所環境影響部門
	臨床・社会医学	酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野小児科学
第 20 回 2019年度	基礎医学	川井 正信	大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科
	臨床医学	武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科
	社会医学	頼藤 貴志	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野
第 21 回 2020年度	基礎医学	安友 康二	徳島大学大学院医歯薬学研究部（医学域）
	臨床医学	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
	臨床医学	笠原 群生	国立成育医療研究センター臓器移植センター
第 22 回 2021年度	基礎医学	鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部臨床内分泌研究室
	臨床医学	難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科
	社会医学	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター社会医学研究部
第 23 回 2022年度	基礎医学	三宅 紀子	国立国際医療研究センター研究所疾患ゲノム研究部
	臨床医学	小林 徹	国立成育医療研究センター臨床研究センターデータサイエンス部門
	社会医学	岡田 あゆみ	岡山大学学術研究院医歯薬学域（小児医科学）
第 24 回 2023年度	基礎医学	岡田 賢	広島大学大学院医系科学研究科小児科学
	臨床医学	菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院小児外科学
	社会医学	竹内 章人	岡山医療センター新生児科・小児神経内科
第 25 回 2024年度	基礎医学	鳴海 覚志	慶應義塾大学医学部小児科学教室
	臨床医学	佐藤 義朗	名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門
	社会医学	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センターグローバルヘルス指標・評価研究科

※2000年度から開始　※敬称略・所属機関は受賞時の機関

4 医学会助成

小児医学の中でも各分野の専門性を高める活動をサポート

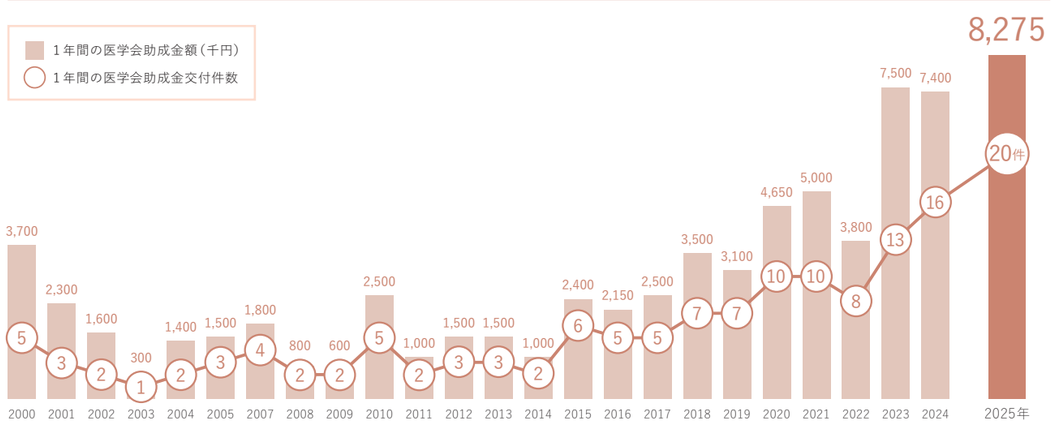
日々アップデートされる知識や技術の共有のために、年間多くの医学会が開催されています。2025年度は20件の応募がありました。選考委員による審査の結果、20件の医学会に対して総額8,275千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第21回 日韓中小児腎セミナー 2025	2025年4月12日(土)	沖縄県市町村自治会館	200
第60回 日本小児腎臓病学会学術集会	2025年5月22日(木)～24日(土)	ウインクあいち	525
第34回 国際小児内視鏡外科学会 (The 34th Annual Congress of IPEG)	2025年5月27日(火)～29日(木)	城山ホテル鹿児島	375
第67回 日本小児神経学会学術集会	2025年6月4日(水)～7日(土)	米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	700
第62回 日本小児外科学会学術集会	2025年6月5日(木)～7日(土)	一橋大学一橋講堂	525
第39回 日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	2025年6月14日(土)	水戸市民会館大会議室	200
第36回 日本小児科医会総会フォーラム in KOBE	2025年6月14日(土)～15日(日)	神戸国際会議場	700
第41回 日本小児臨床アレルギー学会学術大会	2025年6月14日(土)～15日(日)	杏林大学三鷹キャンパス	525
第61回 日本小児放射線学会学術集会	2025年6月27日(金)～28日(土)	一橋大学一橋講堂	375
第61回 日本小児循環器学会総会・学術集会	2025年7月10日(木)～12日(土)	三重県総合文化センター	700
第30回 日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2025年7月21日(月)	日本教育会館	200
第34回 日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	2025年7月24日(木)～26日(土)	YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)	375
第16回 日本子ども虐待医学会学術集会	2025年8月22日(金)～24日(日)	福岡国際会議場	525
第59回 日本小児外科学会 関東甲信越地方会	2025年8月30日(土)	鎌倉芸術館	200
第43回 日本小児心身医学会学術集会	2025年9月19日(金)～21日(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	525
日本家族看護学会第32回学術集会	2025年9月20日(土)～21日(日)	札幌市教育文化会館	300
IPOKRaTES Seminar in JAPAN 2025	2025年10月16日(木)～18日(土)	ウェスタ川越	375
第58回 日本小児内分泌学会学術集会	2025年10月30日(木)～11月1日(土)	グランドニッコー東京ベイ舞浜	525
第10回 日本小児超音波研究会学術集会	2025年11月2日(日)	ソニックシティ	200
第9回 日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会	2026年2月14日(土)～15日(日)	仙台国際センター展示棟	225
		合計	8,275

※開催日順

これまでの実績［医学会に対する助成金と交付件数の推移］



※1992年から開始　※2006年は、申請・助成無し　※交付決定後の辞退・返金を含む

5 小児医療施設支援

入院中の子どもたちに居心地のよい環境を

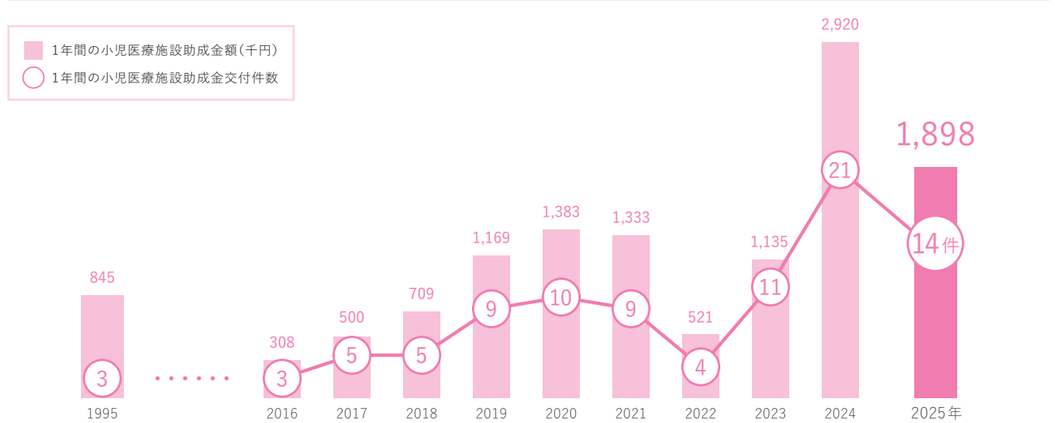
入院中・入所中の子どもたちの環境を整えるための資金に悩む小児医療施設は少なくありません。2025年度は14件の応募があり、選考委員による審査の結果、14件の小児医療施設に対して総額約1,898千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

施設名	使途	助成金額(円)
柏市立柏病院	ベビーソファ・DVDプレイヤー・DVD	132,355
埼玉医科大学病院	クリスマスツリー・本棚・ベビーチェア・DVD	124,262
埼玉県済生会加須病院	ベビーカー・ベビーラック	130,900
埼玉県立精神医療センター	漫画・DVD・ゲームソフト・ゲームコントローラー	141,949
自治医科大学附属さいたま医療センター	ルームランナー・エアロバイク・防音マット	125,093
千葉県こども病院	ベビーソファ・絵本・おもちゃ・DVD・避難用新生児キャリー	147,555
千葉西総合病院	絵本・DVD・DVDプレーヤー・おままごとセット	145,047
東葛医療福祉センター光陽園	DVDプレイヤー・室内用プラネタリウム・CD・絵本	149,849
東京女子医科大学附属八千代医療センター	iPad	150,000
獨協医科大学埼玉医療センター	ベビーソファ・ソフトブロック・ジョイントマット	149,323
成田赤十字病院	プロジェクター・DVD	91,530
東千葉メディカルセンター	ベビーチェア・おもちゃ・絵本・ベビー服	149,833
深谷赤十字病院	学習用折り畳みテーブル・学習用チェア・おままごとセット	129,910
船橋市立医療センター	折り畳み式ミニテーブル・DVDプレイヤー・七夕用特大笹・図鑑セット・おもちゃ・医療用プレパレーション人形セット	130,339
	合計	1,897,945

※五十音順

これまでの実績［小児医療施設に対する助成金と交付件数の推移］



※1995年から開始　※交付決定後の返金を含む

6 ドクターによる出前セミナー

保育・教育現場と一緒に子どもの健康を守る

養護教諭や看護師が医師から直接学ぶ機会は貴重で、全国各地から多くのご応募をいただいています。2025年度は養護教諭向け31件・看護職向け6件のお申し込みがありました。選考委員による審査の結果、20件に対して講師派遣を決定しました。子どもの心に関する問題については講演の希望が多く合同開催とし、計19件の研修会を実施しています。

受講者インタビュー

いざというときのために確かな知識と体制づくりが子どもを守る

辰巳第三保育園
看護師
佐藤 敬子 先生

南砂第五保育園
看護師
澤田 智香子 先生

保育園で子どもたちへの応急処置で大変なことは何ですか？

（澤田）本来、子どもにケガや体調の急変がなく、応急処置が必要ないことが最もよいのですが、現実はそうはいきません。いざというときに看護師や保育士が迅速に対応できるよう、常に備えておく必要があります。しかも応急処置の方法は日々アップデートされていますから、私たちも勉強が必要です。看護師がいない園もあるので、習得した知識を保育士の先生にも伝えていくことが大切です。園では日々の保育に加え、行事準備などたくさんの業務があり、限られた時間の中で医療的な知識をどう周知していくかは工夫が求められます。

子どもたちの応急処置で苦労したエピソードを教えてください

（佐藤）熱性けいれんの対応を何度か経験しました。けいれんが長く続くなど大変なケースもありましたが、看護師が中心となって、応急処置、救急車の要請や役割分担などを行いました。看護師が配置されていない園もありますが、どの園でも、迅速・適切に対応することが大切と考えています。他園からの依頼を受けて、熱性けいれんの対応方法の指導のために訪問するなど、日頃から連携を図っています。

セミナーを受けてみてどんな気づきがありましたか？

（佐藤）現場ですぐに使える内容ばかりでした。早く止血できる絆創膏の貼り方や、氷嚢のつくり方のコツなどです。セミナー後、園では保健業務マニュアルを見直し、誰でも適切に動けるようフローチャートを整備しています。

（澤田）日々行っている処置が正しいかどうか、確認することができました。例えば、傷口に砂が入ったときには、現在は、消毒液を使わず流水で洗い流しています。講師からその対応で問題ないことの根拠と安全性を説明いただき、対応に自信が持てました。

開催一覧

実施日	テーマ「演題」	講 師	主催者
2025年 7月28日（月）	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援 ～2つのタイプに分けて考えましょう～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	ひたちなか市 学校保健会講演会
2025年 7月30日（水）	子どもの心に関する問題 「学校で出会う子どもの心の問題 ～理解と学校ができる対応～」	岡山大学学術研究院医歯薬学域　岡山大学病院 小児医療センター小児心身医療科 准教授　岡田あゆみ先生	つくばみらい市立学校 保健会保健主事・養護 教諭研修会
2025年 8月1日（金）	低身長 「成長曲線から学ぶ子どもの成長・成熟と成長障害について」	獨協医科大学埼玉医療センター小児科 准教授　小山さとみ先生	ふじみ野市教育研究会 養護部主任研修会
2025年 8月1日（金）	子どもの心に関する問題 「不登校を子どもと社会のウェルビーイングの視点でとらえてみる - 発達の土台、子ども時代の体験、子どもの力 -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	藤枝市教育研究会 学校保健研究部
2025年 8月5日（火）	性教育 「こどもたちの成長発達に合わせた切れ目のない包括的性教育指導を考える ～性暴力・差別のない社会実現を三島のこどもたちのために～」	あいち小児保健医療総合センター 総合診療科　森重智先生 ココカラウィメンズクリニック 院長　伊藤加奈子先生	三島市養護教諭研修会
2025年 8月5日（火）	子どもの心に関する問題 「子どもの権利に基づいたウェルビーイング - 子ども時代とともにある私たちにできること -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	坂井地区養護教諭研究会／若狭町小児保健連絡会【合同開催】
2025年 8月21日（木）	保健室での救急処置 「学校における事故とその対応」	埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	愛媛県学校保健会 養護部会
2025年 8月27日（水）	保健室での救急処置 「こんな時どうする?」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	浦安市学校保健会 養護教諭研修会
2025年 9月9日（火）	保健室での救急処置 「学校における事故とその対応」	埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	湯沢雄勝養護教諭・ 保健主事部会
2025年 9月11日（木）	園内・施設内での救急処置 「こどものケガ ～知っておきたい基礎知識～」	順天堂大学医学部附属順天堂医院 救急科　高木淑恵先生	江東区公私立 看護師研修
2025年 9月24日（水）	保健室での救急処置 「こんな時どうする?」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	多治見市養護教諭部会 研修会
2025年 10月23日（木）	園内・施設内での救急処置 「こんな時どうする?」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	習志野市立保育所・ こども園保健会
2025年 11月20日（木）	子どもの心に関する問題 「小児科医が考える不登校対応 ～医療と教育の連携～」	岡山大学学術研究院医歯薬学域　岡山大学病院 小児医療センター小児心身医療科 准教授　岡田あゆみ先生	那須地区学校保健大会
2025年 12月10日（水）	園内・施設内での救急処置 「小児の救急対応」	埼玉医科大学総合医療センター　小児科教授 小児救命救急センター長　櫻井淑男 先生	中原区保育・子育て 総合支援センター
2025年 12月11日（木）	性教育 「こどもたちの成長発達に合わせた切れ目のない包括的性教育指導を考える ～性暴力・差別のない社会実現を峡南のこどもたちのために～」	あいち小児保健医療総合センター 総合診療科　森重智先生	峡南養護教員研究会
2025年 12月12日（金）	子どもの心に関する問題 「子どものこころを支えたい ～学校 - 医療連携を考える～」	さいたま市民医療センター 小児科医長　越野由紀先生	秩父地区保健主事・ 養護教諭合同研修会
2025年 12月13日（土）	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援 ～ 2つのタイプに分けると考えやすいです～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	TEAM NEXT（宮崎県 教育研修センター指定 自主研究グループ）
2026年 1月21日（水）	子どもの心に関する問題 「子どもの心の健康とウェルビーイング - 子ども時代とともにある私たちにできること -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	保健主任研修会
2026年 2月5日（木）	保健室での救急処置 「こどもの応急処置 ～知っておきたい基礎知識～」	順天堂大学医学部附属順天堂医院 救急科　高木淑恵先生	東初協学校 保健部会研修会

※開催日順　※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

7 医師・地域連携子ども支援助成

子どものこえからはじまるアドボカシー活動を後押し

2025年度に、小児医療におけるアドボカシー活動を支援する「医師・地域連携子ども支援助成 - 子どものこえからはじまるアドボカシー活動 -」を新たな事業としてスタートしました。小児科医を中心とする医師が、子どものこえに耳を傾け認識した問題について地域と連携して解決にあたる取り組みに対して、助成金を交付します。初年度は26件の応募があり、選考委員会の結果、5件に対して2,999,181円の助成金を交付しました。

事業概要

■対象活動

次の要件をいずれも満たす活動

(1) 小児科医および子どもにかかわる医師が、その専門職の活動の中で得た「子どものこえ」を通じて明確化した、子どもの身体的、心理的、社会的な問題の解決を目的とする活動であること

(2) 小児科医および子どもにかかわる医師が、地域と協働して取り組む活動であること

■支援

資金的支援　：1件70万円を上限

非資金的支援：伴走支援や報告会の実施

スタートの背景

近年、子どもを取り巻く問題はますます複雑で多様化しており、その解決には職種や立場を問わず、子どもに関わるすべての人が子どものこえに耳を傾け、連携して取り組むことが重要になっています。

小児科医や子どもに関わる医師は、日々の診療の中で子どものこえに接し、子どもたちが抱えるさまざまな問題に直面しています。だからこそ「子どもの代弁者」として、他の専門職や地域と連携しながら問題の解決に取り組む、すなわちアドボカシー活動を行うことには大きな意義があります。

しかし、日本では小児科医によるアドボカシー活動への理解や認知はまだ十分とは言えず、活動の開始や継続に必要な資金的な支援も限られています。そこで2025年度より本事業を開始いたしました。

多職種から構成される選考委員

選考委員会での議論

採択活動一覧

団体名もしくは代表者名	活動内容	助成額(円)
まどかファミリークリニック 小児科医 丸山大地	**「VOICE (Voices Of Insightful Children's Expressions)」** **取り組む課題** 在宅医療的ケア児の多くは発話が困難で意思を伝えることが難しい。また、支援現場では時間や人的資源が限られ本人の「声」が受け止めきれていない。成人医療や福祉へ移行する際の「ケアの崖」を乗り越えるには、本人の意思を起点とした支援体制整備が急務である。 **具体的な活動内容** 在宅医療・福祉・教育の多職種が集まるカンファレンスで医療的ケア児の「声なき声」を共有。子どもの「好き・嫌い・安心できること・不安なこと」等を言語・非言語的表現を含め整理し支援現場で活用できる資料を作る。また、支援者が専門家から「子どもの声」の捉え方を学ぶ機会を設ける。	348,301
豊川市 HPV ワクチン接種検討委員会 (豊川市医師会内)	**「『中学生のみんなに知ってほしいがんのはなし』プロジェクト」** **取り組む課題** HPV ワクチンの定期接種対象者である小6～高1相当の女子と保護者は、正しい情報へのアクセスが十分でなく接種に不安や迷いを抱えている。正しい知識を丁寧に伝え、命の大切さと、若い世代のがん・子宮頸がんはワクチンで予防できること学んでもらい、接種を促していきたい。 **具体的な活動内容** 医師会・保健センター・教育委員会・外部講師が連携し、がんサバイバーによる豊川市の中学生・保護者・教職員向け講座を実施。「がんの原因に感染症がありワクチンで予防できるがんがある」、「HPV ワクチンの有効性と安全性」等を伝える。中学生、教職員や学校医等に学習用冊子も配布。	630,880
大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科 医長 温井めぐみ	**「パープルバスで届ける てんかんのある子どものこえ in 大阪」** **取り組む課題** てんかんには誤解や偏見が根強く、子どもの成長や自己肯定感に影響を与えている。また、てんかんのある子どもや家族は日常生活で「言い出しにくさ」や「社会との断絶」を感じやすい。彼らの「こえ」を社会へ届け「私はてんかんです」と安心して言える社会の実現に取り組みたい。 **具体的な活動内容** てんかんのある子どもや家族の「こえ」をデザインしたマグネットシートで車体を装飾したバスで大阪府内を巡回する。途中、協力企業（近鉄百貨店など）の敷地や公共空間に停車し、子どもや家族の「こえ」を届けるパネル展示、交流イベントを行う。SNSでの動画配信も企画する。	700,000
熊本大学大学院 生命科学研究部 小児科学講座	**「食物アレルギーと向き合う子どもたちの声から始める - ともに歩む支援のかたちを考える」** **取り組む課題** 食物アレルギーを持つ子どもたちは、食べられないことへの不安やアレルゲンを含む食物摂取時の恐怖感を抱えている。学校や家庭での支援体制には子どもたちの声が十分に反映されていない。子ども自身の語りから支援を捉え直し、医療・教育・家庭がより良くつながるための支援体制を目指す。 **具体的な活動内容** 食物アレルギーの子どもへのアンケートから日常生活や食事への思い・経験を聞き、学校現場や支援の状況を把握。子どもの声と合わせ分析・整理し「子どもの声に学ぶ支援のヒント」として資料化。医療者、教育関係者、保護者で共有し、誰もが安心して「食べられる」環境づくりを目指す。	700,000
愛知県医療療育 総合センター中央病院	**「先天性遺伝性疾患の成人移行期支援及び成人期医療の実態調査と支援」** **取り組む課題** 先天性遺伝性疾患を持つ子どもは身体的な合併症や知的障害も伴い、小児期・成人期に医療や福祉の支援が必要だが,成人期の健康管理の情報は不足し医療体制も整っていない。「子どものこえ、家族のこえ」から現状を把握し、彼らが成人期も必要な医療福祉を受けられるよう取り組みたい。 **具体的な活動内容** 当事者や支援者の移行期医療に関するニーズと課題についてアンケートを実施。結果を分析し、医学的妥当性と当事者視点の両面から疾患フォローアップガイドを作成。 患者・家族むけに早期移行準備支援を試行的に実施するほか、他の希少疾患の患者会や講演会などで継続して発信する。	620,000

※敬称略・所属機関は採択時の機関

採択者インタビュー

「声なき声」に耳を澄まし その子らしい成長を支える

社会医療法人天神会まどかファミリークリニック　小児科医
丸山 大地 先生

現在取り組んでいる活動について教えてください。

私は小児科医として在宅医療に携わりながら、医療的ケア児の「声なき声」に耳を傾ける活動を行っています。こうした子どもたちの中には、コミュニケーションをとることが難しかったり、とろうとしていても周囲が聞き取れていない場合があります。そこで、医療・福祉・教育など医療的ケア児に関わる多職種が集まり、約1時間、子どものしぐさなどから「その子が何を言おうとしているか」に耳を澄ませ、皆で考えます。さらに、その内容をその子の好き・嫌いなどの気持ちを可視化した情報として共有し、ケアに役立てています。

どうしてその活動に取り組もうと思ったのですか？

在宅医療的ケア児の多くは発話が困難なため、本人の「素直な気持ち」が受け止められにくい現状があります。ですが、在宅診療を続ける中で、それは聞く側である私たちが受け取りにくいと感じているだけで、子どもはそれぞれのやり方で自分の気持ちを伝えているのではないかと思うようになりました。病気があってもなくても、子どもの「声」を大切にすることで、その子がその子らしく成長することを手助けできるのではないかと考え、この活動を続けています。

多職種との連携で意識したポイントは何ですか？

最近はあらゆるものが細分化され、専門性も高まっています。しかし、各分野のプロフェッショナルが集まるだけで自然と大きな力になるわけではなく、そこに難しさがあると感じています。特に、信念を持つ人たちが集まるからこそ、対立が生まれることもあります。

だからこそ、さまざまな考え方や専門性を活かし合うことが重要だと思っています。そのために欠かせないのが「信頼」です。信頼は、関係をつなぐ見えない接着剤です。言葉だけでなく日々の行動で示すこと、意見が異なる場面でも相手の背景を踏まえて理解しようとすることなど、基本的な姿勢の積み重ねを大切にしています。そうした積み重ねが、チームとしての力を引き出す基盤になると考えています。

2026年度以降の募集について

2026年度以降は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

2026年度 小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2027年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕 彰	賞状、トロフィーおよび賞金100万円
募集期間	2026年8月～10月中旬頃予定

2026年度 小児医療施設支援

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 原則として埼玉県、千葉県、群馬県、神奈川県の県内にある入院病棟を有する医療施設または医療型入所施設 (2) 2025年度以降に当財団の「小児医療施設支援」事業で助成金を受けていないこと
助成内容	15万円以内／件
募集期間	2026年8月～10月中旬頃予定

2027年度 医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が2027年4月1日～2028年3月31日であること (3) 医学会（主催団体）として設立から3年以上が経過していること
助成内容	90万円以内／件
募集期間	2026年8月～10月中旬頃予定

2027年度 研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究。ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事していること (2) 申請時かつ助成期間中も(1)を満たしていること (3) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (4) 2024年度以降に当財団の「研究助成」事業で助成金を受けていないこと (5) 若手枠の場合は、2027年3月31日時点で40歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉400万円以内／件　〈若手枠〉150万円以内／件
募集期間	2026年9月～11月末頃予定

2027年度 ドクターによる出前セミナー

セミナーテーマや応募資格、応募方法については当財団ウェブサイトをご覧ください！

2027年度 奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額7万円以内
募集期間	2027年4月～5月中旬頃予定

2027年度 医師・地域連携子ども支援助成

対象活動	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 小児科医および子どもにかかわる医師が、その専門職の活動の中で得た「子どものこえ」を通じて明確化した、子どもの身体的、心理的、社会的な問題の解決を目的とする活動であること (2) 小児科医および子どもにかかわる医師が、地域と協働して取り組む活動であること
助成内容	70万円以内／件
募集期間	2027年5月～6月中旬頃予定

おわりに

私は1982年の秋に、当時小学校２年生だった長男の「正登（まさのり）」を、
ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。
いまもって信じられないほど、あっという間の出来事でした。
それまでの私は、仕事のことしか頭にありませんでしたから、
家族との生活の場は相当おろそかになっていたと思います。

正登が亡くなって、「あの子は、お父さんを求めていた」と妻から聞かされ愕然としました。
そして、人の親としてあの子に何もしてやれなかったことを、
つくづく悔やみましたが、後悔は先に立ちません。
未だに正登には、本当に申し訳ないことをしてしまったと心で詫びている毎日です。
このような出来事が背景にあって、この川野小児医学奨学財団が設立されました。

申すまでもなく、子どもたちの無邪気な笑顔や素直な動作が世の中を明るくし、
私たち大人の心を和ませてくれます。
また、わが国や世界の将来を担ってくれるのも同じ子どもたちです。
そのかけがえのない大切な子どもたちが、明るく健やかに成長してくれることは、
親だけでなく等しくみんなの願いです。

日本においては小児医学・医療の劇的な進歩により、
新生児死亡率は世界でも一、二を争うほど低い状況になり、子どもたちの健康も増進されました。
しかし、時には正登のようなことも起こります。
また昨今では、医療的ケアを必要とする子どもや若年層の自殺者、児童虐待の増加など、
子どもを取り巻く問題が尽きることはありません。
当財団の使命は、どのような時代においても子どもたちの健やかな成長を実現することです。
そのために、これからも、多種多様な方々とともに一年一年歩んで参りたいと思います。
引き続き、あたたかいご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。

理事長
川野幸夫

ご寄附のご案内

子どもたちの健やかな成長を願って、ともに小児医学・医療の発展を支援してくださる皆さまからの
ご寄附をお待ちしております。大切なご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、
小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

ご寄附の方法

1 以下のいずれかの方法にてお申し込みください。

◆申込書（Word版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、
メール添付（PDF）・ご郵送・FAXのいずれかにて以下までお送りください。

メール添付の方	info@kawanozaidan.or.jp
ご郵送の方	〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1 公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局宛
FAXの方	049-246-7006

◆申込フォーム（Webフォーム版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力の上、お申し込みください。

2 銀行等よりご寄附をお振り込みください。

3 受領証明書が必要な方にはご入金確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします。

寄附金申込書

◆申込フォーム
（Webフォーム版）

◆申込書
（Word版）

寄附金にかかる税制上の優遇措置

当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます。

個人の方	ご寄附をされた翌年の確定申告時に当財団発行の受領証明書を添付し、 所轄の税務署等にご申告ください。
法人の方	ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください。

沿革

1989（平成元）年	埼玉県の認可を受け、財団法人川野小児医学奨学財団を設立
1990（平成2）年	研究助成および奨学金貸与事業を開始
1992（平成4）年	医学会助成事業を開始
1995（平成7）年	小児医療施設支援事業を開始
1999（平成11）年	財団設立10周年を記念して、小児医学川野賞を創設
2001（平成13）年	特定公益増進法人に認定
2007（平成19）年	研究助成事業に若手枠（40歳以下）を追加
2010（平成22）年	奨学金給付事業を開始
2012（平成24）年	公益財団法人に移行
2019（平成31）年	行政庁を埼玉県から内閣府に変更 財団設立30周年を記念して、ドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業を開始
2021（令和3）年	奨学金給付事業の対象に千葉県内高校卒業者を追加 ドクターによる出前セミナー事業の対象に就学前教育・保育施設の看護職を追加
2022（令和4）年	小児医療施設支援事業の対象に千葉県内にある施設を追加
2025（令和7）年	医師・地域連携 子ども支援助成事業を開始

当財団のロゴマークは、理事長の長男が亡くなった時に流れたであろう涙の滴の形をベースとしています。同時に、その時から当財団が抱き続けている「小児医学に関わる多様な人々の支えにより、多くの子どもの明るく健やかな成長を実現したい」という想いをハートと点で表しています。

役員・選考委員一覧

[理 事]

理 事 長
川野 幸夫
株式会社ブルーゾーンホールディングス 代表取締役会長
株式会社ヤオコー 代表取締役会長

川野 光世
株式会社川野商事 常務取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 理事

新井 一
学校法人順天堂 理事長補佐

岡 明
地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター 病院長

上池 昌伸
株式会社ブルーゾーンホールディングス 取締役
株式会社ヤオコー 専務取締役

[監 事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 取締役会長

原 敏成
武州瓦斯株式会社 取締役会長

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー 相談役

川野 澄人
株式会社ブルーゾーンホールディングス 代表取締役社長
株式会社ヤオコー 代表取締役社長

利根 忠博
埼玉県民共済生活協同組合 理事長
株式会社埼玉りそな銀行 元会長・社長

村井 満
公益財団法人日本バドミントン協会 会長

豊田 友康
株式会社店舗プランニング 顧問

秋岡 祐子
埼玉医科大学病院小児科 教授

※敬称略・順不同

[選考委員]

秋岡 祐子
埼玉医科大学病院小児科 教授

■ 秋山 千枝子
医療法人社団千実会あきやま子どもクリニック 理事長

岡 明
地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター 病院長

奥山 眞紀子
山梨県立大学大学院人間福祉学研究科 特任教授
社会福祉法人子どもの虐待防止センター 理事

加藤 則子
十文字学園女子大学教職課程センター 特別任用教授

● 椛島 香代
文京学院大学人間学部 学長補佐（教職課程改革担当）
教職課程センター長 教授

■ 上池 昌伸
株式会社ブルーゾーンホールディングス 取締役
株式会社ヤオコー 専務取締役

河合 佳子
東北医科薬科大学医学部 医学部長

清水 直樹
聖マリアンナ医科大学小児科学講座 主任教授
福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授（小児集中治療）

滝田 順子
京都大学大学院医学研究科発達小児科学 教授

成田 雅美
杏林大学医学部小児科学教室 教授

長谷川 奉延
医療法人社団葵会柏たなか病院 病院長
慶應義塾大学 名誉教授

濱田 洋通
千葉大学大学院医学研究院小児病態学 教授

■ 南野 奈津子
東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科 教授・学科長
一般財団法人健やか親子支援協会 理事

山縣 然太朗
国立研究開発法人国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク 副所長
山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター 特任教授

● 山﨑 章子
埼玉県立浦和高等学校 養護教諭
埼玉県養護教諭会 元会長

■ 余谷 暢之
国立研究開発法人国立成育医療研究センター
総合診療部緩和ケア科 診療部長・成育こどもシンクタンク戦略支援室 室員

※敬称略・五十音順
※●はドクターによる出前セミナー事業の選考委員 ■は医師・地域連携 子ども支援助成事業の選考委員
2026年6月16日現在

発行日：2026年7月3日　発行人：川野紘子　アートディレクション：古谷萌　デザイン：五十嵐淳子
撮影：荒井隆之（P13 P15-16 P22）、山本あゆみ（P1-7 P20 P24）　取材・執筆協力：glassy&Co.・志村江（P4-6 P20 P24）

【アンケート調査】

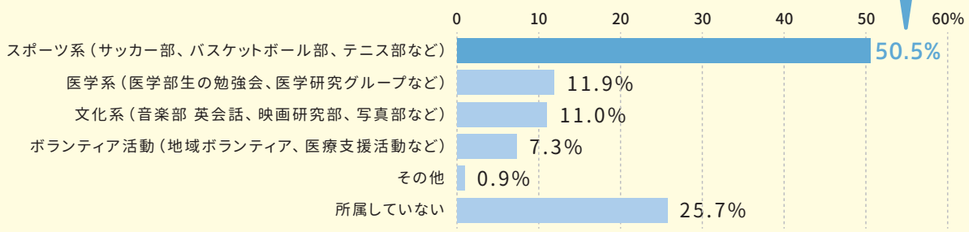
医学生の意識調査

当財団では2023年度より全国の医学部医学科で学ぶ学生を対象にアンケート調査を実施しています。本調査は、学校生活や希望進路などに関する質問を行い、医学生の志向や実態について調査･分析することを目的としています。

Q. 部活動やサークルに所属していますか？［複数回答］

医学生の7割強が課外活動に参加 -中でもスポーツ系が人気トップに- 部活やサークル、ボランティアなどの課外活動をしている人が74.3%となった。

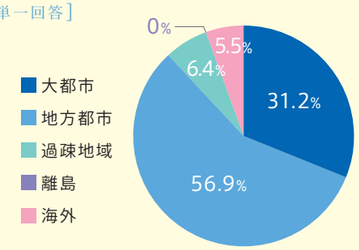
「スポーツ系」の部活が突出して多く 50.5%



Q. 将来は医師としてどこで働きたいですか？［単一回答］

将来の勤務先の希望は「大都市」よりも「地方都市」-約6割が「地方都市」を希望-

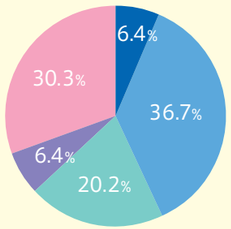
「地方都市」（56.9%）が「大都市」（31.2%）を25.7pt上回った。「過疎地域」は6.4%に留まった。



Q. 2024年4月より施行された「医師の働き方改革」により、医師が働く環境はより良くなっていくと思いますか？［単一回答］

「医師の働き方改革」により「職場環境は良くなる」と考える医学生が多い結果に

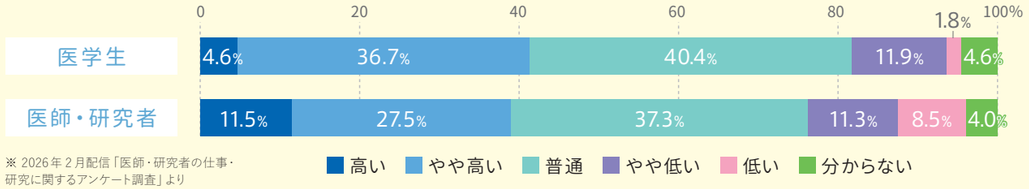
「はい」が43.1%、「いいえ」が26.6%となった。一方「分からない」という回答も30.3%あった。



Q. 日本の医学研究のレベルは世界と比べて高いと思いますか？［単一回答］

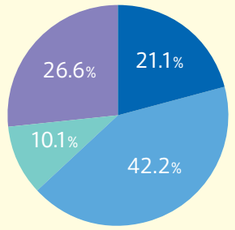
医学生の4割強が日本の医学研究レベルを「高い」と回答 -現職医師より高く評価-

「高い（高い＋やや高い）」が41.3%となり、2026年2月に当財団より配信した「医師・研究者の仕事・研究に関するアンケート調査」の「高い（高い＋やや高い）」（39.0%）を上回った。



※ 2026年2月配信「医師・研究者の仕事・研究に関するアンケート調査」より

Q. 電子カルテ、画像診断、オンライン診療、ロボットによる手術支援など、医療テクノロジーの進化に注目が集まっています。それについてどう思いますか？［単一回答］



医療テクノロジーの進化に6割強の医学生が「興味がある」と回答

「興味がある」という回答が63.3%となり、医療テクノロジーに対する高い興味がうかがえる結果となった。

Q. 医学生ならではの、「あるある」エピソードを教えてください。［自由記述］（一部抜粋）

- 病気の勉強をしていると、ちょっとした症状でも重い病気じゃないかと疑ってしまう（4年生 大阪府）
- 街中にある医学系の単語にいちいち反応してしまう（3年生 東京都）
- 友達から医療相談を受ける（6年生 東京都）

調査概要

※本調査リリースの調査結果・グラフをご利用いただく際は、【（公財）川野小児医学奨学財団調べ】とご明記ください。

調査名：「第3回 医学生の意識調査」
対象者：全国の大学医学部医学科に通う医学生
調査方法：インターネット調査
調査期間：2025年3月7日～3月11日
回答数：109名（男性29名、女性80名）

アンケートの全設問については、右記よりご覧いただけます。

川野正登記念 公益財団法人
川野小児医学奨学財団

〒350-1124
埼玉県川越市新宿町 1-10-1
Tel：049-247-1717
Fax：049-246-7006
Mail：info@kawanozaidan.or.jp
Url：www.kawanozaidan.or.jp

Facebook　Instagram

「Climb」というタイトルは、財団設立のきっかけとなった
正登（まさのり）さんの名前にちなんでつけられました。